

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	A-139	15-048
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
Risk factors for long-bone fractures in children up to 5 years of age: a nested case-control study. 5歳までの子供の長骨骨折の危険因子：コホート内症例対照研究		
執筆者		
Ruth Baker, Elizabeth Orton, Laila J Tata, Denise Kendrick		
掲載誌		
Arch Dis Child. 2015 May;100(5):432-7. doi: 10.1136/archdischild-2013-305715.		
キーワード		PMID
骨折、アルコール乱用、子供		25398446
要 旨		
目的： イギリスでは1歳から14歳の子供が毎年外傷で200万人救急科に訪れ12万人が入院しており、外傷を予防することは重要である。なかでも骨折は救急科に訪れる主要な要因であり、入院や手術が必要になることもある。そこで、5歳までの子供の長骨骨折の危険因子を調べることで、どのような家庭が外傷予防の介入の対象となるか検討した。		
方法： イギリスの1次診療研究データベースである The Health Improvement Network (THIN) を用いて1988年から2004年に生まれた子供を対象とした。初めて骨折した5歳以下の子供を症例とし、症例に対して10例の対照をマッチングした集団ベースコホート内症例対照研究を行った。症例数は2,456、対照数は23,611となり、条件付きロジスティック回帰分析を行った。		
結果： 1歳以下の子供に比べて1歳以上で長骨骨折のオッズ比が4.09倍から3歳以上で4.88倍まで高くなった。20歳以下の母親の子供の方が30歳以上の母親の子供より1.33倍長骨骨折のオッズ比が高かった。4人目かそれ以降の子供の方が1人目の子供よりも3.12倍長骨骨折のオッズ比が高かった。医療記録にアルコール乱用歴がある母親の子供の方がアルコール乱用歴のない母親に比べて2.33倍長骨骨折のオッズ比が高かった。		
結論： 長骨骨折は1歳以上の子供の年齢、若い母親、出産順位が後、及び母親のアルコール乱用と関連が見られた。これらの危険因子は、外傷予防の介入として家族や地域社会に優先的に使用されるべきである。		